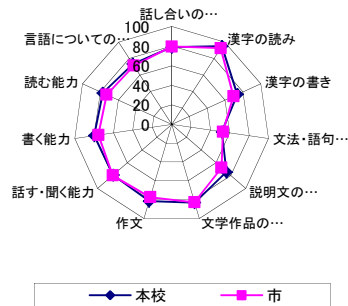


宇都宮市立豊郷中学校 第1学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	79.0	79.5
	漢字の読み	95.0	92.6
	漢字の書き	73.7	69.5
	文法・語句に関する知識	52.0	52.9
	説明文の内容の読み取り	74.1	67.4
	文学作品の内容の読み取り	83.2	82.9
観点別	作文	81.6	77.4
	話す・聞く能力	79.0	79.5
	書く能力	79.9	75.6
	読む能力	77.5	73.1
	言語についての知識・理解・技能	73.4	71.5



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	本校の正答率が宇都宮市の正答率を0.5ポイント下回る結果となった。 特に、話の内容を聞き取る問題の正答率が低い。更に、それを的確に捉えたうえで自分の考えを記述する問題については、正答率が60.1%にとどまった。 生徒たちは話すこと、聞くことに関する学習には意欲を示し、楽しく取り組んでいる。しかし、その要旨をメモに取ることを苦手としている生徒が多く、今後の課題となっている。	スピーチ、ディスカッションなどの単元でメモを取ることに重点を置いたり、それをまとめたりすることで聞く力、聞いたことを活用する力を養いたい。 また一方で、普段の授業中での発表から、きちんとした返事、態度、発声などを指導していく。それとともに聞く態度もしっかりと身につけさせたい。
漢字	本校の正答率が宇都宮市の正答率を2.4ポイント上回る結果となった。 日常生活における生徒たちの漢字への関心は非常に高い。読書や授業で読めない漢字を見つけると、自ら調べたり教師に質問したりする姿が見られる。 そういった熱心な姿勢が今回の結果に結びついたのだろう。	近年、パソコンや携帯電話、スマートフォンの普及により、漢字を読む機会が著しく増えた。漢字が読めないと大変不便である。このことを、生徒に意識させ、学習の必要性を感じさせたい。 そのためには、漢字の音訓、六書などを理解させ、読み方の見当をつけられるよう、指導していく。
漢字の書き	本校の正答率が宇都宮市の正答率を4.2ポイント上回る結果となった。 入学当初は、漢字に苦手意識を抱いている生徒が多かった。そのため、普段の授業の中で、小学校からの既習漢字のミニテストを取り入れた。このことにより、生徒は自主的に漢字練習を行うようになったため、漢字に関する知識は確かなものになってきていると考えられる。	本校には、漢字に興味をもっている生徒が多い。そのことを利用して、教科書に載っている熟語だけでなく、様々な用例を紹介する。そして、多面で応用できるように指導していく。 また、漢字は実際に文章に活かすことによって身につくものである。書くことの学習材でも、既習のものは漢字を用いるように促したい。
文法・語句に関する知識	本校の正答率が宇都宮市の正答率を0.9ポイント下回る残念な結果となったが、4問の出題のうち、3問は2ポイント前後上回っている。 しかし、単語に関する問題は、生徒の苦手意識が非常に高く、正答率も市の正答率を16.6ポイント大きく下回り、復習が急務である。 また、故事成語に関する問題は市の正答率を上回ってはいるものの、その数値は43.0%と、半分にも届いておらず、本校の課題が明らかとなった。	まず、単語は、文節と文の成分について、徹底的に理解できるようにし、そのうえで再度確認する。 故事成語は、教科書で大きく取り扱う「矛盾」以外の語句についての印象が薄い。本校では朝の読書を週に4日行っており、ほとんどの生徒が読書に親しんでいる。だから、図書館の本を用いて、「矛盾」以外の故事を紹介し、興味を喚起させたい。
説明文の内容の読み取り	本校の正答率が宇都宮市の正答率を6.7ポイント上回る結果となった。また、問題の内容のすべての出題のねらいにおいて、宇都宮市の正答率を上回った。 普段の授業において、文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約したり、事実と意見などを読み分ける学習を積み重ねてきたことが、今回の調査に反映されたと考えられる。	今後も、説明文の内容の読み取りの授業においては、文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約したり、事実と意見などを読み分ける学習を積み重ねていきたい。 さらに、今後は文章に表れているものの見方や考え方を理解するだけでなく、様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を生徒が身に付けることができるように取り組んでいきたい。
文学作品の内容の読み取り	本校の正答率が宇都宮市の正答率をわずかではあるが、0.3ポイント上回る結果となった。生徒は物語の展開に即し、登場人物の心情の移り変わりや豊かなキャラクター性に注目しながら読むことを楽しんでいる。 しかし、出題のねらい別項目で見ると「文脈の中での語句の効果的な使い方について理解することができる」については、宇都宮市の正答率より2.2ポイント低い結果となった。	今後も授業のみならず、「朝の読書」等を通して文学作品を生徒が自発的に読み、楽しもうとする姿勢を育てていきたい。 一方、問題の内容全体としては正答率が市の平均を上回ったものの、出題のねらい中、最も正答率が低かった「主題を考えること」や市の平均正答率を下回った「語句の効果的な使い方」については、文章の展開を確かめながら主題を考えたり、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との違いに注目する等、生徒が考える読書に取り組んでいきたい。
作文	本校の正答率が宇都宮市の正答率を4.2ポイント上回る結果となった。また、すべての出題のねらいにおいても、宇都宮市の正答率を上回っている。 しかし、「文章全体の構成を考えることができる」については他の出題のねらいについての正答率が82.1%以上あるのに対して、69.8%とやや低い傾向にある。	書くことに対して抵抗感を持つ生徒が少なく、課題作文に対して常に熱心に取り組んできたことが今回の調査に反映されたと考えられる。これからも、表現教材にしっかりと力を入れ、生徒の中に書くことに対する抵抗感が生まれないようにしたい。 また、伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを伝えるための文章全体の構成を意識して書く力を生徒が身に付けることができるように取り組んでいきたい。